

I 被害応急調査結果

1 概況

(1) 気象概況

－気象庁資料からみた、平成29年の月別の気象概況は、次のとおりである－

1月 月平均気温は沖縄・奄美でかなり高く、東・西日本で高かった。中旬から下旬前半にかけては全国的に寒気が流れ込み、日本海側を中心に大雪となった。西日本では日照時間がかなり多かった。

上旬と下旬後半は冬型の気圧配置が続かず、寒気の南下が弱かったため、気温が顕著に高くなった日があった。一方、中旬から下旬前半にかけては日本付近に寒気が南下し、冬型の気圧配置が強まった。全国的に気温が平年を下回り、日本海側では中旬は東北地方から山陰にかけて、下旬前半は西日本を中心に大雪となり、広島（広島県）で15日に19cmの積雪となるなど、太平洋側でも大雪となった所があった。

月平均気温は、上旬と下旬後半の顕著な高温の影響で、沖縄・奄美でかなり高く、東・西日本で高かった。また、西日本では、太平洋側では冬型の気圧配置が緩んだ時期も低気圧や前線の影響を受けにくかったことから、日本海側では寒気の影響を受ける時期はあったものの、月としては寒気の影響が弱かったことから、いずれも日照時間がかなり多かった。

2月 月平均気温は、北・東日本で高く、西日本、沖縄・奄美で平年並だった。上旬後半から中旬前半にかけて西日本日本海側で大雪となった。月間日照時間は、西日本太平洋側でかなり多かった。

北日本では、北からの寒気の影響が弱く、月平均気温が高く、日本海側の降雪量はかなり少なかった。低気圧が北日本付近を通ることが多く、北日本日本海側では日照時間が少なかった。また、低気圧の影響が大きかった東北日本海側では、降雪量は少なかったが、雪ではなく雨の降る日もあり、降水量はかなり多かった。

一方、東日本から沖縄・奄美では、上旬後半から中旬前半にかけて冬型の気圧配置が強まり、大陸から強い寒気が流れ込んだ。太平洋側では晴れた日が多かったが、日本海側では西日本日本海側を中心に大雪となった。鳥取（鳥取県）では、11日に積雪が91cmに達し、1983/84年冬以来33年ぶりに90cmをこえ、交通障害や農業施設被害が発生した。中旬後半には低気圧が日本海を北東に進んだため、南よりの風が強まって気温が上昇し、各地で春一番が吹いた。東日本以西は、気温の高い時期と低い時期があり、月平均気温は西日本と沖縄・奄美は平年並だったが、東日本では低温の程度が弱く高かった。低気圧は北日本付近を通ることが多く、東日本太平洋側と西日本は、低気圧の影響が小さく、高気圧に覆われる日が多かったため、月間日照時間は多く、西日本太平洋側ではかなり多かった。

3月 西日本と沖縄・奄美の気温は低かった。北日本の気温は高かった。北日本から西日本にかけての降水量は少なく、日照時間が多かった。

北日本から西日本にかけては、低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わったが、大陸からの高気圧に覆われる日が多く、低気圧の影響は小さかった。このため、月間日照時間は、北・東・西日本で多かった。また、月降水量は、東日本日本海側と西日本でかなり少なく、北日本と東日本太平洋側で少なかった。一方、沖縄・奄美では低気圧や前線の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多く、10日は八重山地方で大雨となった。

また、西日本や沖縄・奄美では、大陸からの冷たい空気がたびたび流れ込んだため、気温の低くなる時期が多く、西日本では2011年以来6年ぶりに月平均気温が低くなった。一方、北日本では上旬を中心に北からの寒気の影響が弱く、月平均気温は高かった。

4月 北・西日本で高温だが、全国的に気温の変動が大きかった。北・東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美で日照時間が多かった。西日本で降水量が多かった。

日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わった。北・東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美では高気圧に覆われやすく月間日照時間が多かったが、南から湿った空気が流れ込みやすかった西日本で降水量が多くなった。中旬には低気圧が発達しながら通過し、本州付近で暴風や大雨となった所があった。下旬には低気圧や前線の影響で、沖縄・奄美で大雨となった所があった。

北・西日本では南から暖かい空気が流れ込みやすかった影響で月平均気温が高かったが、低気圧の通過後に一時的に北からの寒気が入るなど、気温の高い時期と低い時期があって全国的に気温の変動が大きかった。

5月 北・東・西日本で気温がかなり高かった。東日本と西日本日本海側で降水量がかなり少なく、東日本日本海側と西日本で日照時間がかなり多かった。

本州付近は高気圧に覆われて晴れる日が多かった。また、日本の北を通った低気圧に向かって南からの暖かい空気が流れ込みやすかったため、北・東・西日本では月平均気温がかなり高くなった。

低気圧は日本の北と南海上を通過することが多く、本州付近は低気圧の影響を受けにくかった。このため、北・東・西日本では月降水量が少ない一方、月間日照時間は多くなった。特に、東日本と西日本日本海側では月降水量がかなり少なく、東日本日本海側と西日本では月間日照時間がかなり多くなった。月降水量の平年比は東海地方で49%、中国地方で30%で、それぞれ1946年の統計開始以来5月として最も少なかった。

沖縄・奄美では、前線や湿った気流の影響を受けやすく、平年と同様に曇りや雨の日が多かった。奄美地方と沖縄地方では13日ごろ（速報値）に梅雨入りし、奄美地方は平年並で、沖縄地方では平年より遅かった。

6月 東日本で日照時間がかなり多く、東日本太平洋側で降水量がかなり少なかった。北日本で降水量がかなり多かった。西日本で気温が低かった。

梅雨前線は日本の南海上に停滞することが多かった。東・西日本では、上旬から中旬まで梅雨前線の影響を受けにくく、移動性高気圧に覆われやすかったため、平年に比べて曇りや雨の日が少なかった。このため、月間日照時間は東日本でかなり多く西日本で多くなり、月降水量は東日本太平洋側でかなり少なく東・西日本日本海側で少なかった。東・西日本では4月下旬から少雨の状態が続いたところがあり、取水制限が行われた河川があった。

低気圧の影響を受けやすかった北日本では、北海道を中心に平年に比べて曇りや雨の日が多く、月降水量はかなり多かった。また、西日本は冷涼な高気圧に覆われやすく、月平均気温が低かった。

沖縄・奄美では梅雨前線や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多く、月間日照時間が少なかったが、梅雨明け後は太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多かった。

なお、梅雨前線の活動に伴い、中旬には九州南部から沖縄・奄美で、下旬には東日本太平洋側や西日本を中心に大雨となったところがあった。

7月 東・西日本、沖縄・奄美は高温、北日本の気温は平年並。東日本太平洋側と東北地方の降水量は少なかった。九州南部の降水量はかなり多かった。

月の前半は、本州付近に南からの暖かく湿った空気が流れ込みやすく、梅雨前線の活動が西日本付近で活発だったため、西日本では九州を中心に所々で大雨となり、九州南部の月降水量はかなり多くなった。また、日本海から北日本付近を低気圧がたびたび通過したため、北日本日本海側でも大雨となった所があった。一方、東日本付近では梅雨前線の活動は全般に不活発だったため、東日本太平洋側と東北地方の月降水量は少なかった。月の後半は、本州付近は北に偏った高気圧に覆われたため、北日本日本海側を中心に日本海側で晴れの日が多かった一方、北・東日本太平洋側では冷たく湿った東よりの風の影響で曇りの日が多かった。月の終わりころは、本州付近は太平洋高気圧に覆われ、東北以南では晴れたが、北海道では前線や低気圧の影響で雨が降り、大雨となった所があった。

沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、7日～8日にかけて沖縄の南を西北西へ進んだ台風第1号や南からの暖かく湿った気流の影響で月降水量は多かった。気温は、北日本では、月の初めや終わり頃は暖かい空気に覆われて高温だったが、上旬の中頃の寒気や月の後半に冷たく湿った東よりの風の影響を受けた影響で、月平均気温は平年並となった。東日本では、月の前半は暖かい空気に覆われて高温だったが、月の後半は冷たく湿った東よりの風の影響で低温となる時期があり、気温の変動が大きく、月平均気温は高かった。

西日本では、上旬と月の終わり頃に暖かい空気に覆われ猛暑日となった所もあり、月平均気温は高かった。沖縄・奄美では、台風第1号等の影響があった上旬の後半を除いて、太平洋高気圧に覆われて晴れて暖かい空気に覆われたため、月平均気温は平年差+0.9℃で1946年の統計開始以来1位タイの高温となった。

8月 沖縄・奄美では気温がかなり高く、日照時間がかなり多かった。北・東日本太平洋側ではオホーツク海高気圧の影響で日照時間がかなり少なかった。東日本日本海側では降水量がかなり多かった。

太平洋高気圧は、日本の南海上で平年に比べて西への張り出しが強かった。このため、沖縄・奄美では晴れる日が多く、また太平洋高気圧の縁辺に沿って西よりの暖かい空気が流れ込みやすかったため、月平均気温はかなり高く、月間日照時間はかなり多かった。沖縄・奄美の月平均気温平年差は+1.4℃で、1946年の統計開始以来の8月として1位の高い記録となった。また、沖縄地方を中心に7月から少雨の状態が続いた所があった。西日本でも晴れて気温が高い日が多く、月平均気温は高かった。

上旬から中旬にかけてオホーツク海高気圧が出現したため、北・東日本太平洋側では北東からの冷たく湿った空気が入りやすかった。また、太平洋高気圧の北・東日本への張り出しは平年に比べて弱く、前線や湿った気流の影響を受けやすかった。このため、北・東日本太平洋側では曇りや雨の日が多い不順な天候となって月間日照時間がかかなり少なくなり、特に北日本太平洋側では気温の低い日が多かった。北・東・西日本では大気の状態が不安定となる時期があり、各地で大雨となった。25日には秋田県の雄物川が7月に続き再び氾濫した。東日本日本海側では、台風第5号の影響も受けたため、月降水量がかかなり多かった。

台風第5号は4日に奄美地方に接近し、7日には和歌山県北部に上陸して9日には山形県沖で温帯低気圧に変わった。発生から消滅までの寿命は18日18時間となり、1951年の統計開始以来3番目の長寿台風となった（速報値）。この台風の影響で、東・西日本や奄美地方では大雨となった所があった。

9月 沖縄・奄美では、日照時間が多く気温がかかなり高かった。日照時間は、北日本と東日本日本海側でかなり多く、西日本では少なかった。中旬には、台風第18号により、北・西日本と沖縄・奄美を中心に大雨となった。

高気圧と低気圧が交互に日本付近を通過して、北日本から西日本では天気は数日の周期で変化したものの、北日本と東日本日本海側では大陸から移動してきた高気圧に覆われやすかったため、月間日照時間はかなり多かった。一方、西日本では、前線や湿った空気の影響を受けやすかったため、月間日照時間は少なかった。また、西日本では、北からの寒気や前線の影響を受けやすく、月平均気温は低かった。北・東日本では、月平均気温は平年並だったが、上旬は北からの寒気の影響で低温となった時期があった。一方、沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて暖かい空気に覆われやすかったため、月間日照時間は多く、月平均気温はかなり高かった。沖縄・奄美の月平均気温の平年差は+1.3℃となり、9月として1位タイの高温となった（統計開始は1946年）。

中旬には台風第18号と前線の影響で、全国的に天気の大きく崩れる時期があった。台風第18号は、13日に非常に強い勢力に発達しながら先島諸島に接近し、宮古島（沖縄県）では13日の日降水量が452.0mmで通年の日降水量として1位の多雨（統計開始は1938年1月）となるなど、記録的な大雨となった所があった。その後、台風第18号は17日に九州南部に上陸、西日本を通過して本州の日本海沿岸を北上、18日には北海道に達した（速報値）。このため、北・西日本と沖縄・奄美を中心に大雨となり、河川の氾濫や浸水、土砂災害などの被害が発生した。

10月 東・西日本、沖縄・奄美では気温がかかなり高かった。北日本では下旬に記録的な低温。西日本では月間日照時間がかかなり少なかった。

全国的に天気は数日の周期で変化した。日本の南海上で太平洋高気圧の勢力が強く、湿った空気が流れ込みやすかったため、西日本中心に曇りや雨の日が多くなった。特に西日本日本海側では、月間日照時間が平年比66%となり、1946年の統計開始以来最も少なかった。3日は台風第18号が猛烈な勢力で沖縄地方に接近し、5日にかけて対馬海峡付近へ進んだため、沖縄・奄美では暴風雨となり、西日本から沖縄・奄美では大雨となった所があった。一方、東日本では低気圧や前線の影響が弱く、まとまった雨となることが少なかった。北日本では、期間をとおして断続的に強い寒気が流れ込み、特に下旬中心に冬型の気圧配置が強まったため、日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、太平洋側では晴れた日が多くなった。北海道地方では7日に平地でも平年より早い初雪を観測した所があり、下旬は各地で雪となった。

気温は、暖かい空気が流れ込みやすかったため、東・西日本、沖縄・奄美ではかなり高かった。特に西日本、沖縄・奄美では、月平均気温がそれぞれ平年差+2.0℃、+2.1℃となり、1946年の統計開始以来最も高かった。北日本では、上旬は高かったが、下旬は強い寒気が流れ込んだためかなり低くなり、気温の変動が大きかった。特に30日から31日にかけて強い寒気が流れこみ、北海道を中心に気温を観測しているアメダス334地点中44地点で日最低気温が統計開始以来10月として最も低くなった（タイ記録5地点を含む）。

11月 北日本日本海側では日照時間が少なく、降水量・降雪量が多かった。東・西日本では気温が低く、東日本と西日本日本海側の日照時間は多かった。沖縄・奄美では日照時間がかなり少なく、降水量が多かった。

日本付近は低気圧と高気圧が交互に通過したが、上旬は東・西日本を中心に移動性高気圧に覆われて晴れた日が多かった。中旬から下旬にかけては北日本付近を低気圧が発達しながらたびたび通過し、低気圧の通過後は北日本を中心に一時的に冬型の気圧配置となって、大陸から寒気が流れ込むことが多かった。特に中旬後半から下旬前半にかけては、偏西風が日本付近で南に蛇行し、真冬並みの強い寒気が流れ込んだ。

このため、北日本日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、日照時間が少なく、降水量・降雪量は多かった。東・西日本では気温が低く、低気圧や寒気の影響を受けた東日本日本海側の降水量は多かった。一方、上旬を中心に移動性高気圧に覆われやすかった東日本と西日本日本海側の日照時間は多く、東日本太平洋側と西日本日本海側の降水量は少なかった。

沖縄・奄美では、中旬から下旬にかけて前線や南からの暖かく湿った気流の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かった。このため、日照時間がかなり少なく、降水量は多かった。

12月 全国的に気温が低く、西日本ではかなり低かった。北・東日本日本海側では降水量が多く、北日本や東日本日本海側では大雪となる時期があった。日照時間は北日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少ない一方、東日本太平洋側で多かった。

日本付近で偏西風が南に蛇行し、強い寒気が断続的に流れ込んだため、全国的に気温が低く、西日本ではかなり低かった。冬型の気圧配置となる日が多く、日本海側では曇りや雪または雨の日が多かったため、北日本日本海側では日照時間がかなり少なく、東・西日本日本海側でも少なかった。一方、太平洋側では晴れた日が多く、東日本太平洋側では日照時間が多かった。

沖縄・奄美では寒気の影響で曇りの日が多く、日照時間はかなり少なかった。

北日本や東日本日本海側では気圧の谷や低気圧の影響を受けやすかったため、東日本日本海側の降水量はかなり多く、北日本日本海側でも多かった。特に、12日頃や27日頃は発達した低気圧や、その後の強い冬型の気圧配置により、北日本や東日本日本海側を中心に大雪となった。一方、西日本では気圧の谷の影響を受けにくかったため、西日本日本海側の降水量はかなり少なかった。

表 1 梅雨入り・梅雨明けの状況（平成29年）

梅雨入り

地 域	本年	平年	前年
沖 縄	5 月 13 日頃	5 月 9 日頃	5 月 16 日頃
奄 美	5 月 13 日頃	5 月 11 日頃	5 月 16 日頃
九州南部	6 月 6 日頃	5 月 31 日頃	5 月 24 日頃
九州北部	6 月 20 日頃	6 月 5 日頃	6 月 4 日頃
四 国	6 月 20 日頃	6 月 5 日頃	6 月 4 日頃
中 国	6 月 20 日頃	6 月 7 日頃	6 月 4 日頃
近 畿	6 月 20 日頃	6 月 7 日頃	6 月 4 日頃
東 海	6 月 21 日頃	6 月 8 日頃	6 月 4 日頃
関東甲信	6 月 7 日頃	6 月 8 日頃	6 月 5 日頃
北 陸	6 月 25 日頃	6 月 12 日頃	6 月 13 日頃
東北南部	6 月 30 日頃	6 月 12 日頃	6 月 13 日頃
東北北部	7 月 1 日頃	6 月 14 日頃	6 月 13 日頃

梅雨明け

地 域	本年	平年	前年
沖 縄	6 月 22 日頃	6 月 23 日頃	6 月 16 日頃
奄 美	6 月 29 日頃	6 月 29 日頃	6 月 18 日頃
九州南部	7 月 13 日頃	7 月 14 日頃	7 月 18 日頃
九州北部	7 月 13 日頃	7 月 19 日頃	7 月 18 日頃
四 国	7 月 13 日頃	7 月 18 日頃	7 月 18 日頃
中 国	7 月 13 日頃	7 月 21 日頃	7 月 18 日頃
近 畿	7 月 13 日頃	7 月 21 日頃	7 月 18 日頃
東 海	7 月 15 日頃	7 月 21 日頃	7 月 28 日頃
関東甲信	7 月 6 日頃	7 月 21 日頃	7 月 29 日頃
北 陸	8 月 2 日頃	7 月 24 日頃	7 月 19 日頃
東北南部	特定しない	7 月 25 日頃	7 月 29 日頃
東北北部	特定しない	7 月 28 日頃	7 月 29 日頃

注：気象庁資料による。

(2) 被害概況

平成29年の日本への台風の接近数は平年より少ない8個で、そのうち上陸数は平年より多い4個（台風第3号、第5号、第18号及び第21号）となった。

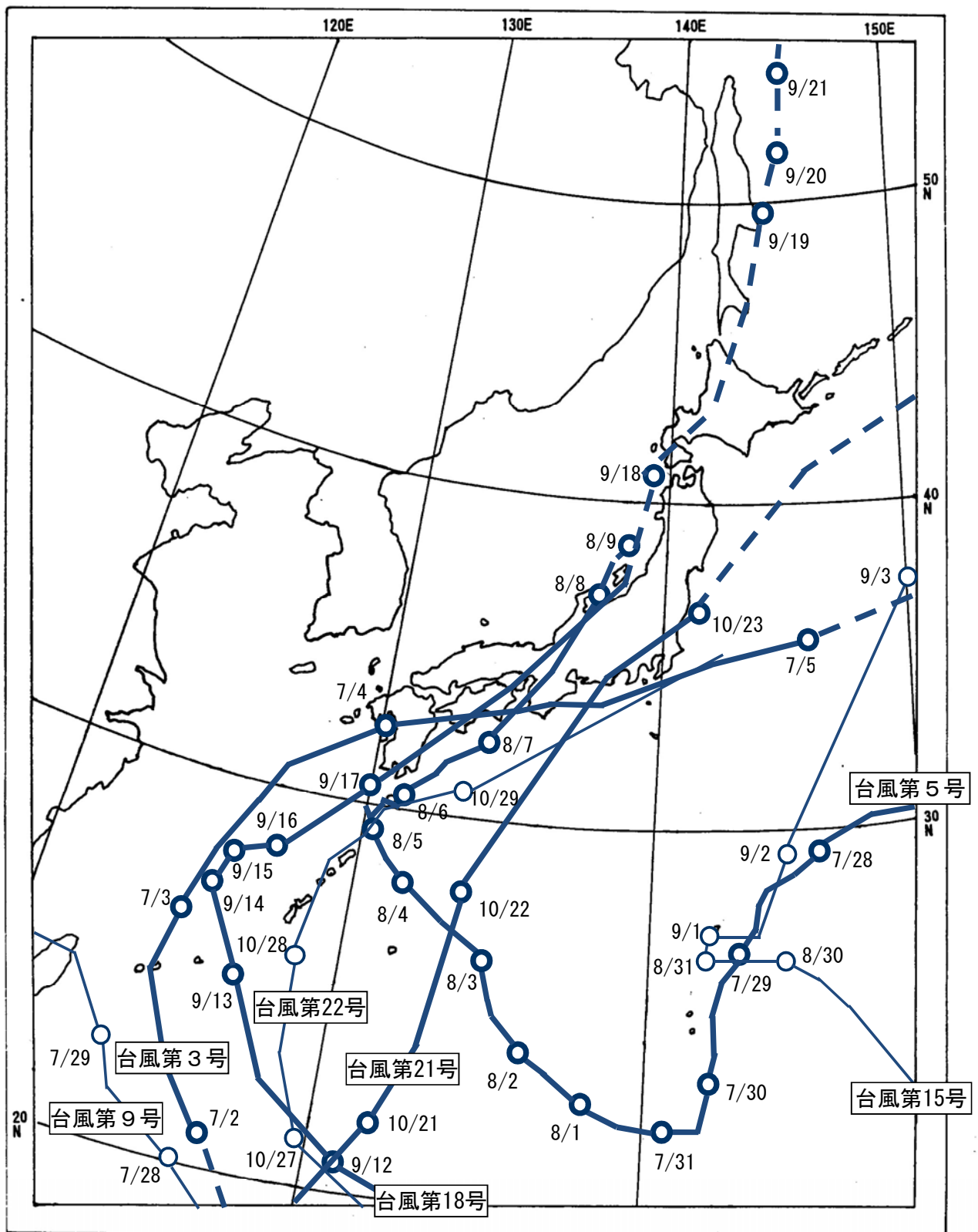
また、梅雨前線の活動が活発となった時期があり、「平成29年7月九州北部豪雨」など記録的な大雨となったところがあった。

これらにより、冠水、倒伏、茎葉の損傷等による被害が発生した。

表2 平成29年に発生した主要災害種類別被害概況（総数）

災害種類名	被害発生時期	被害面積	被害見込金額	主な被害農作物	主な被害地域
台風第3号及び梅雨前線による大雨	6月30日～7月27日	9,020 ^{ha}	35 ^{億円}	水陸稲、野菜、果樹	福岡県、秋田県、 熊本県 等
台風第18号	9月13日～18日	61,100	25	工芸農作物、果樹、水陸稲	沖縄県、北海道、 新潟県 等
台風第21号及び台風第22号	10月21日～30日	51,800	73	野菜、果樹、雑穀・豆類	千葉県、鹿児島県、 高知県 等

(3) 平成29年に日本列島に上陸・接近した主な台風経路図



- 注 : 1 経路上の○印は傍らに示した日の午前9時の位置を示す。
 2 経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。
 3 気象庁資料から作成した。